

～野川自然再生を目指して～

「夢を語ろう明日の野川」報告書



小倉教授講演



分科会活動報告

プログラム

- ・野川と流域連絡会について
- ・生きもの分科会、水質分科会、水量分科会の活動報告
- ・生きもの、水質、水量グループ別情報バザー
- ・全体自由討論会

展示コーナー

- ・野川流域湧水マップ
- ・野川流域用水マップ
- ・野川の通信簿
- ・野川の水及び水質調査
- ・生きもの観察会記録
- ・野川の生き物ガイドブック



情報バザー



全体自由討論会

平成 15 年 7 月

野川流域連絡会

■ 「夢を語ろう明日の野川」

- ・ 6月22日(日)10時から15時30分まで、調布市文化会館12階大会議室において市民等約120人の参加を得て行なった。
- ・ 午前の部では、小倉教授の講演の後、野川流域連絡会の生きもの、水質、水量各分科会の代表者5名から各分科会のこれまでの活動内容について報告が行なわれた。
- ・ 午後の部では、生き物、水質、水量の3グループに分かれ情報バザーを行なった。
情報バザーとは各分科会の委員が店員となり、お客様(市民)に商品(活動の成果)を売り、その対価として、意見や情報をもらう方式。
- ・ 最後に、各情報バザーでの市民の意見や情報を紹介し、参加者全員で野川への想いや野川の課題について語り合った。
- ・ 生きもの観察会記録、野川の生きものガイドブック、野川の通信簿、野川流域湧水マップ、用水マップなどの各分科会の展示物は、委員たちが約3年にわたって延べ50数回の会を通じて、調査、検討の上、造ったものです。当日は昼休みを中心に展示コーナーの説明員(店員)となり市民へ説明をした。

■ 分科会活動報告



生き物分科会：水生生物

- ・ 魚など水生生物は一時に比べ回復している。
- ・ メダカなどの小さな魚も多い。
- ・ 子供たちと水遊びをしながら観察している。
- ・ 「野川生き物ガイドブック」を作成し、観察会で活用している。



生き物分科会：鳥類

- ・ 一般公募で2回の観察会と委員による調査を行なった。
- ・ 野川には木や草が多く鳥がくると条件が整いつつある。
- ・ 川の中の木の伐採には鳥のことも考えてもらいたい。



生き物分科会：植物

- ・ 野川が良くなるとともに植物の種類と量が回復した。
- ・ 貴重種もかなりある。
- ・ 外来種が多いことには困ったものだ。



水質分科会

- ・ 野川の日常の水はきれいだが、大雨時に出てくるオーバーフローの水がきたない。
- ・ これを改善しないと野川はきれいにならない。
- ・ するには「野川の通信簿」の仕組みが大切である。



水量分科会

- ・ 野川は湧水でなりたっている。
- ・ 都市化に伴ない湧水が減少している。
- ・ いつもきれいな水が流れる野川を取り戻すために野川復活大作戦に取り組む必要がある。
- ・ 水涸れ対策、湧水の復活、水路の回復など、流域連絡会から提案をする。
- ・ 湧水マップ、用水マップ、水涸れマップを市民の手で造った。



■ 情報バザー

■ 生き物グループ



- 市民からの意見・提案 -

- ・生きもの調査に参加した子どもは野川のすばらしさを忘れないだろう。
- ・人が自然とふれあう場所、生物の棲息空間などゾーンを分けてつきあっていきたい。
- ・どじょう池のようなビオトープをもっとつくりたい。
- ・野川は身近かな自然とふれあえる心地良い散歩道、いつまでも大切にしたい。
- ・樹木の伐採や草刈は野川の生態系に配慮して行うべき。
- ・河岸の草刈は水際の草の残し方、刈り方を工夫したい。
- ・野川でも外来種のパンフレットをつくり、除去作戦を呼びかけてはどうか。
- ・自然の生きものに人がエサをやるのがいいことかどうか。

■ 水質グループ



- 市民からの意見・提案 -

- ・子供たちが水遊びを楽しめる野川にしたい。
- ・魚がいきいきと暮らせる野川にしたい。
- ・雨天時に下水がオーバーフローする実態はひどい。
- ・みんなが親しめる野川にするためには下水道の「合流改善」が必要
- ・野川に処理水はいらない、夢が吹っ飛ぶ
- ・野川を良くするために、自分たち市民が出来ることがもっとあるはず。
- ・「野川の通信簿」の仕組みを確立し「野川モデル」として全国に発信したい。
- ・7月3日の南小学校の取り組みをきっかけに広めたい。

■ 水量グループ



- 市民からの意見・提案 -

- ・泳げるような水量がほしい。
- ・魚が棲め、水辺にサギが来て、子供たちが水遊びのできる水量がほしい。
- ・水量はほしいが下水処理水は入れたくない。
- ・野川の水量を確保するためには、国分寺崖線のグリーンベルト保全が大切。
- ・湧水が流れているからこそ野川、湧水の量が減っている、何とか回復したい。
- ・雨水浸透ますを増やすネットワークをつくりたい。
- ・玉川上水、砂川用水を使って野川に多摩川の水を引き込みたい。
- ・都市計画マスタープランを流域毎につくることが大切。

